平成 27 年度(2016)年 3 月 31 日発行

大学美術教育学会 会報 No.34

編集・発行　大学美術教育学会広報室
理 事 長　増田金吾（東京学芸大学）
総務局長　芳賀正之（静岡大学）
広 報 室　E-mail: daibibumon@uaesj.com（総務局専用）
事務支局　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入る西大路町 146 番地　中西印刷株式会社　学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacos.com

理事長退任のご挨拶

大学美術教育学会理事長　増田　金吾（東京学芸大学）

理事長就任時、学会会報（2014.9 発行）に、学会会則に基づいて本学会の目的を掲げました。それは「本会は会員相互の協力により、美術教育及び美術に関する理論及び実践的研究を行う。」というものです。美術教育及び美術の両方に関わる学会は、他には類を見ません。今日、大学における教科専門分野は、教科教育分野に接近しており、その傾向は今後さらに強まると考えられます。

ゼロ免課程廃止や教職大学院強化の姿勢を打ち出している文部科学行政の動向は、国立大学教員養成系大学・学部における教科専門分野に対し、今まで以上に手厳しくなると思われます。

こうした中で、美術教育及び美術の両方に関わる我々は、今後さらに優れた研究成果を世に送り出して行かねばなりません。具体的に言えば、論文の口頭発表や学会誌の発行などです。そうした意味で、学会誌委員会の活動に負うところは大であります。学会大会における口頭発表数の変遷は、平成 25・26・27 年度は、64・53・63 本であり、ほぼ安定した数であります。また、投稿論文数と採択本数の関係、並びにその変遷は、平成 25 年度は 58 対 36・26 年度は 82 対 50・27 年度は 68 対 53 で、採択率は 62%・61%・78%となっています。ここでは数のことしか示せませんが、内容（質）も重要です。

学会誌の編集作業は、たいへんな労力を要し、かつ責任重大です。査読作業や査読の協力要請も大切な事柄です。同時に、査読に協力をしてくださる会員の力も欠かせません。

地区全国理事の存在も大きな意味を持ちます。他学会には見られぬ特徴と言えましょう。これは、日本教育大学協会全国美術部門と分化されていなかった時代の流れを汲むものであります。学会を全国的に、要所要所で支えてくださっているこうした体制は心強いものがあります。

また、グローバル化の必要性や重要性が叫ばれる今日、国際交流委員会の果たす役割には大きなものがあります。着実に足下（日本）を見ることと、世界を見つめる視点は、共に重要であります。こうした委員会において、委員の研究活動と同時に、学会組織としての対応がますます求められることとなりましょう。

一方、私どもの学会に限らず美術教育の学会は、大学や美術教育界において行政面等で厳しい状況に置かれています。以前より組織されていた「造形芸術教育協議会」（美術科教育学会、日本美術教育学会、大学美術教育学会よりなる連携組織）を通じ連携を組んでの対応は重要だと考えます。平成 27 年 3 月に静岡で「造形芸術教育協議会・シンポジウム」が造形芸術教育協議会の主催によって行われ、27 年 6 月には「美術教育連絡協議会」として、さらに他の美術教育団体と共に、文部科学大臣や中央教育審議会長等へ向けて、「美術教育の充実に向けての要望書」を提出しました。

加えて、平成 27 年 11 月には、「芸術教育協同シンポジウム：教育現場の芸術力を語る」が日本音楽教育学会と造形芸術教育協議会の主催で東京において開かれました。

以上の活動を行う上で、役員・各種委員会委員の方たちにお世話になりました。とりわけ、学会運営委員会の方たちには近くで支えて頂きました。

会員の皆様のご支援とご協力により、任期を終えようとしております。ありがとうございました。

大学美術教育学会　平成２７年度役員・各種委員会委員一覧

■理事長　増田金吾（東京学芸大学 26-27）

■副理事長

新関伸也（滋賀大学 26-27）

竹井　史（愛知教育大学 27-28）

※学会誌委員長兼任

■特別委員　山口喜雄（宇都宮大学 27）

■総務局

総務局長　芳賀正之（静岡大学 26-27）

総務部長　佐藤賢司（大阪教育大学 26-27）

総務局理事

松尾大介（上越教育大学 27）

喜多村徹雄（群馬大学 26-27）

石上城行（埼玉大学 26-27）

畠山智宏（清和大学短期大学部 26-27）

■学会大会運営委員

渡辺邦夫（横浜国立大学 26-27）

阿部宏行（北海道教育大学 27-28）

■監事　大嶋　彰（滋賀大学 27）

岩村伸一（京都教育大学 27-28）

■地区全国理事

Ⅰ〔北海道〕

佐藤昌彦（北海道教育大学札幌校 26-27）

三橋純予（北海道教育大学岩見沢校 27-28）

〔東　北〕

煤孫康二（岩手大学 26-27）

村上タカシ（宮城教育大学 27-28）

Ⅱ〔関　東〕

茂木一司（群馬大学 26-27）

村松俊夫（山梨大学 27-28）

Ⅲ〔北　陸〕

阿部靖子（上越教育大学 26-27）

岡田匡史（信州大学 27-28）

〔東　海〕

山本政幸（岐阜大学 26-27）

富山祥瑞（愛知教育大学 27-28）

Ⅳ〔近　畿〕

世ノ一善生（滋賀大学 26-27）

高木栄一（和歌山大学 27-28）

〔四　国〕

金子宜正（高知大学 26-27）

山田芳明（鳴門教育大学 27-28）

Ⅴ〔中　国〕

福田隆眞（山口大学 26-27）

一鍬田徹（広島大学 27-28）

〔九　州〕

佐藤敬助（長崎大学 26-27）

喜久山悟（熊本大学 27-28）

■私立大学代表理事

磯部錦司（椙山女学園大学 26-27）

大成哲雄（聖徳大学 27-28）

■学会誌委員会（H27 年度　14 名）

委員長　竹井　史（愛知教育大学 27-28）

副委員長　佐藤賢司（大阪教育大学 26-27）

新野貴則（山梨大学 27）

委員　[H26-27 年度委員　6 名]

赤木里香子（岡山大学 26-27）

小野康男（横浜国立大学 25-27）

小谷　充（島根大学 26-27）

白井嘉尚（静岡大学 26-27）

松本健義（上越教育大学 26-27）

山野てるひ（京都女子大学 26-27）

委員　[H27-28 年度委員　6 名]

齋藤　学（山形大学 27-28）

西村徳行（東京学芸大学 27-28）

樋口一成（愛知教育大学 27-28）

矢野　真（京都女子大学 27-28）

山田芳明（鳴門教育大学 27-28）

渡邉美香（大阪教育大学 27-28）

■国際交流委員会（H27 年度　13 名）

委員長　安東恭一郎（香川大学 26-27）

副委員長　鈴木幹雄（神戸大学 26-27）

煤孫康二（岩手大学 26-27）

委員　[H26-27 年度委員　7 名]

池内慈朗（埼玉大学 26-27）

中村和世（広島大学 26-27）

長田謙一（名古屋芸術大学 26-27）

福田隆眞（山口大学 26-27）

甲田小知代（新潟市立潟東中学校 26-27）

結城孝雄（東京家政大学 26-27）

大泉義一（横浜国立大学 27-28）

小笠原文（広島文化学園大学 27-28）

石上城行（埼玉大学 27）

協力委員

竹内とも子（千代田区立九段小学校 26-27）

平成２７年度 各種委員会活動報告①

■学会誌委員会

●平成 27 年度事業報告

『美術教育学』48 号結果について

投稿本数 68 編。9 月 25 日(金)査読委員 85 名に依頼。10 月 25 日大阪教育大学天王寺キャンパスにて第 2 回学会誌委員会にて、掲載、不掲載、追加査読を決定。追加査読に関しては、学会誌委員による査読を行い、条件付き掲載、不掲載を決定。結果は、以下の通り。

結果：掲載 53 本（掲載率 78%）

内訳：掲載 11 本、条件付掲載 42 本、掲載不可 15 本。

●編集委員会開催日程

① 学会誌委員会（１回幹事会）
平成 27 年 6 月 22 日 10:00～12:00 滋賀大学附属幼稚園、学会誌運営引き継ぎ。

② 学会誌委員会（２回幹事会）
平成 27 年 7 月 26 日　13:00～17:00 滋賀大学査読委員候補者決定

③ 第１回学会誌委員会
平成 27 年 9 月 19 日 13:30～15:30 横浜国立大学

④ 学会誌委員会（３回幹事会）
平成 27 年 10 月 25 日 10:30～12:30 大阪教育大学天王寺キャンパス中王館

④ 第２回学会誌委員会
平成 27 年 10 月 25 日 13:30～16:30 大阪教育大学天王寺キャンパス中央館

⑤ 学会誌委員会(第４回幹事会)
平成 27 年 12 月 12 日　10:00～14:00　東京 TKP 新橋ビジネスセンター

●学会誌の今後の検討事項

① 査読期間について
・期間の拡大

② 学会誌投稿について
・事前登録及び論文投稿締め切り時間の明瞭化と厳守
・註及び引用文献の取扱いの明確化

③ 投稿規程違反について
・字数オーバー他投稿違反への対応

④ 査読方法について
・CC、AA について査読委員会のチェック機能の追加他

●その他

① J-STAGE の掲載時期の確認

② 機関リポジトリの公表時期の確認

（文責：竹井）

■国際交流委員会

本年度の国際交流委員会は、２回の委員会会議を開催し、活動方針を検討した。並行して、「国際交流情報 IRCN」を２度にわたりホームページに公開し、会員に国際交流情報を提供した。更に学会理事会からの要請事柄を前向きに検討し、国際交流委員会の事業等について自主的･自己反省的に検討を深めた。しかし安東恭一郎委員長の病気療養中のご逝去は、本委員会の活動にとり多大なる喪失となった。

１．安東先生ご逝去に際しての弔意と敬意

2016 年２月 16 日安東国際交流委員会委員長が逝去された。同年３月６日第２回委員会参加者全員が、安東委員長のご貢献を感謝し、またご冥福を祈念し３分間の黙祷を捧げた。同年２月 18 日のご葬儀には、学会理事会、国際交流委員会からの弔電が寄せられ、学会の弔意と謝辞を親族の方々に心からお伝えすることとなった。

２.新規委員・新役員体制・委員会開催

１)新委員の紹介:横国大･大泉先生, 石上先生(埼玉大・総務局より)

２)平成 28 年度-29 年年度新役員について：現在まで二期、４年委員長を務めた安東が同職を退任、新役員として、委員長・鈴木、副委員長・福田、煤孫、事務局・中村、甲田、小笠原、結城とした。(以上、2015 年９月 19 日)

３)本委員会が開かれ、委員会関連諸議題について審議がなされた(第一回:2015. ９.19、第２回:2016. ３.６)。

３.『国際交流情報 IRCN』の発行

１)『国際交流情報 IRCN』(創刊号～６号）のアップロード：宇都宮大の山口前委員長より、PDF データを送っていただき、ホームページ上にアップロードされた。第７～第 10 号に関しても、継続的にアップロードの予定。

２)『国際交流情報 IRCN』第 11 号発行の検討：第 11 号は、平成 26 年度 10 月委員会及び 3 月に東京で開催された本委員会にて原稿担当分担者を決定、原稿締め切りは、５月末とされた。最終的に、５点の原稿が掲載され、同号は 2016 年３月１日ホームページ上にアップロードされた。

３)IRCN12 号の発行について：IRCN は、第 10 号まで冊子編集を行っていたが、アウトソーシングに伴う予算措置（予算削減）に伴い、11 号から安東委員長が自主編集し PDF で提出、学会 Web での配信に対応した。12 号は、第２回委員会の審議に基づき鈴木

が編集を担当した。

４)国際交流情報 IRCN 第 12 号のアップロード準備完了に伴い、本委員会委員間の相互評価点検がなされた。(諸意見：「グローバル化の下で伝統的なことをどのように教えているか」というテーマは、非常に好テーマであった。／第 12 号は、他分野の先生方に興味をもってもらえるテーマでよかった。／いろいろな切り口の記事を見ることができる。／テーマがグローバルだけでなく、いろいろなアプローチや課題意識が見える所が良い。／委員会委員以外の先生方も関われたのがよかった。)

更にアップロード時期について審議がなされ、12 号執筆者への調査結果を踏まえ、3 月 25 日(金)に決定された。

５)交際交流情報 IRCN 第 13 号についての審議と検討：意見交換の結果、委員会内部者だけの執筆は閉塞性を生み出しがちである為、外部の学会会員の方々にも執筆を依頼する方向性が確認された。

４. 今後の課題

１)大学美術教育学会理事会からの国際交流委員会への要請について：理事会からは、委員長会議への参加要請があり、同時に委員会は「小野次期理事長と協議しながら進める」という原則点の確認がなされた。

２)平成 28 年度国際交流委員会の事業等についての意見交換：2016 年３月６日、委員長会議での要請に関する報告の後、国際交流委員会の取り組みについての意見交換がなされた。

国際交流委員会の事業等についての原則的確認：更に、本委員会は学会の目的と要請に基づき理事会により設置が承認されているもの、無条件的に存在が承認されているものではない点（設立当初の理念は、他の国美術教育紹介と他の国（とりわけ韓国美術教育界）との橋渡しであった）が確認された。

国際交流委員会の取り組みについての反省的意見交換がなされた。(諸意見：かつて山口・安東委員長時代に、諸外国を、対象国ブロックごとに委員の検討を行い、配置した時期があった。これは委員会の課題性と必然性に由来している（空白領域をなくすための措置)。／国際交流委員会は、冊子作りを自己目的化しないことが必要（最終目標は、学問的情報伝達だけではなく、美術・美術教育への情熱・抱負の涵養にあること)。／しかし、国際情報誌は重要であり、交流の輪が広がる道を模索することが必要、他。)

３）IRCN 第 13 号原稿締め切り：2016 年６月 30 日（木）

４)2017 年度の韓国開催 INSEA に向けての国際交流委員会の取り組みについての審議：先生方のポジティヴな人脈を大事にして、様々な国と交流を行う。／次期理事長と協議しながら進めていく、以上方針が確認された。

安東恭一郎委員長代理：
鈴木幹雄（神戸大学）

第５４回 大学美術教育学会 横浜大会報告

2015 年 9 月 20 日（日）21 日（月祝）、私達は「多様な文化の時代における図画工作･美術科教員の育成」」を大会テーマに、第 54 回大学美術教育学会（横浜大会）を、横浜国立大学で開催しました。二日間の活動内容を企画及び運営者の立場から振り返り大会の報告とさせていただきます。

今回の横浜大会は、口頭発表、ポスター発表、ポスター展示の研究発表、シンポジウム（後述）、学部学生の為の美術教育学生会議、また、新たに大会併設企画「造形教育実践フォーラム」を開催して、地元現職教員による授業実践報告の展示と共にセッションを企画しました。横浜大会実行委員会では、この様な将来の学会を担う若手の意欲を真摯に受け止め、大会実行委員会は元より院生学部生のスタッフ全員が「参加者一人一人の方々を「おもてなしの心」でお迎えし、研究者相互の出会いと交流の場を造る」といった共有ビジョンを抱き、大会準備を進めました。それは大会会場案内や掲示等の細かな心遣いによって、発表者や参加者の方々に対し、会場への導線や各会場への順路を明快に示す計画準備でありました。

初日午後のシンポジウムは「美術の現状 教科としての価値の再定義」をテーマとし、図画工作・美術という教科が置かれている現状課題について教科の外部からの視点として、東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長 木下史青氏、「思考のイメージ論的転回」を提唱されている京都大学人間環境学研究科の岡田温司教授もお迎えして、芸術の概念自体が変容した 20 世紀に続く 21 世紀に於ける「図画工作・美術科教育の将来あるべき姿」について様々な視点から多角的に議論しました。

本大会には、全国から学会員約 250 名（教育実践フォーラム参加非学会員と参加者も含め約 350 名）もの多数の方々のご参加をいただきました。

口頭発表 62 件、ポスター発表展示 16 件が二日間に渡り行われました。口頭発表会場では 21 世紀型の多文化時代に於けるスクリーン･リテラシーに関する能力を育成する為の実践的研究が 6 件連続、海外における教育事情や制度の検討を通した美術教育への提言、地域に根差した取り組みから美術教育の実践的可能性を探るものなど、大変興味深い発表が行われました。広いピロティーに設けられたポスター会場では学会員の美術教育に関する実践報告や教材開発の成果が展示され、ポスターセッションでは闊達な質疑等が交わされました。

その奥に設営された本大会の新企画「かながわ造形教育実践フォーラム」の学校現場の子ども達の作品紹介や授業実践の展示は、活気に溢れ、同セッションは貴重な交流の場となりました。教員養成は学校教員養成が指命である故、学校現場で様々な美術教育の取り組みを実践する現職教員を理解し、連携協力の継続的な役割を持つべきではないかという提言となったと思っております。

そして、「学生視点－美術教育の夢を語ろう－」テーマ「美術と生きる」で議論した「学生会議 2015」では、本音で語り合う学生達の熱い姿に感銘しました。美術教育の将来を担う学生達を育てて行くことの責任も改めて感じさせられました。

横浜大会は、アウトソーシング化二年目として順調に移行、開催にあたりましては増田金吾 学会理事長を始めとする本部役員の皆様から、多大なご支援を賜りました。とりわけ芳賀正之 総務局長には早期の準備段階から大会終了まで長きに渡り手厚いサポートを頂きました。また、関東地区の皆様には、口頭発表の司会等でご協力頂きました。皆様のお影で有意義な大会が開催できましたことを、横浜大会実行委員会を代表致しまして心よりお礼申し上げます。

横浜国立大学　渡辺邦夫

平成２７年度 第２回 拡大理事会報告①

日時：平成 28 年 3 月 6 日（日）14：15〜15：30
会場：アットビジネス東京駅　305 号室

出席者：
増田代表・理事長、小野副代表(副)、新関副理事長(正)、竹井副理事長(副)・学会誌委員会委員長、芳賀総務局長、新野部門部長、松尾総務局理事、石上総務局理事、喜多村総務局理事、畠山総務局理事、渡辺学会大会運営委員、阿部学会大会運営委員、佐藤地区全国理事、三橋地区全国理事、煤孫地区全国理事、村松地区全国理事、阿部地区全国理事、岡田地区全国理事、富山地区全国理事、高木地区全国理事、金子地区全国理事、一鍬田地区全国理事、佐藤地区全国理事、喜久山地区全国理事、小澤特別課題検討準備委員会委員長、鈴木国際交流委員会副委員長

Ⅰ．挨拶
議事に先立ち、先ず新関副理事長より開会の辞がなされ、次いで増田理事長より挨拶がなされた。

Ⅱ．報告・協議
※【共通】は、部門の報告・協議題をあわせて一括して取り扱った。
※部門副代表及び各種委員長は、拡大理事会に参席し、学会関係の協議に立ち会った。

〈報告事項〉
1　平成 27 年度大学美術教育学会事業報告
芳賀総務局長から、配布資料をもとに平成 27 年度学会事業報告(案)について説明がなされた。
2　横浜大会報告【共通】
渡辺学会大会運営委員より、配布資料をもとに横浜大会について報告がなされた。
3　学会誌委員会報告
竹井委員長より、学会誌の査読、編集等、一連の業務結果について報告がなされた。
次年度以降、4 週間以上の査読期間を確保する意向が示された。
投稿の規程違反による不掲載について報告があった。字数の超過については、執筆者に修正を課して掲載した旨の報告がなされた。
学会誌委員会による最終的な掲載可否の判断等、現在の査読方法の改善点について検討していく旨の説明がなされた。
J-STAGE 登録にともなう、註と引用文献の記載の変更に対応していない論文の確認作業の煩雑さについて指摘がなされた。そして、来年度より中西印刷から記載例を明示していく旨の報告がなされた。
4　国際交流員会報告
鈴木副委員長より、安東委員長の訃報について報告がなされた。
ホームページへの情報誌掲載について説明がなされた。
韓国で開催される InSEA に向けた学会による貢献の方策について説明がなされた。

〈協議事項〉
1　平成 28 年度役員・委員会
芳賀総務局長より、平成 28 年度の役員・各種委員会委員（案）について配布資料をもとに説明がなされた。併せて、地区全国理事に 6 月中の次期地区全国理事の選出が依頼された。
2　大学美術教育学会規約について【共通】
新野部門部長と小野副代表より、大学美術教育学会規約の一部改正（案)、併せて日本教育大学協会全国美術部門規定及び各種細則の一部改正（案）について配布資料をもとに説明がなされた。そして細かい文言等の修正は、次期代表、理事長に一任することが確認された。
3　北海道大会の実施日程・内容について
佐藤全国地区理事と阿部学会大会運営委員より 9 月 24 日（土)・25 日（日）に開催される北海道大会について、配布資料をもとに説明がなされ、大会運営にかかわる業務への協力が各委員に依頼された。
学生会議について質問があり、次代の学会を担う研究者を育成する場として今後も継続してほしい旨の要望が出された。
4　平成 28 年度大学美術教育学会事業計画（案）
芳賀総務局長より、平成 28 年度大学美術教育学会事業計画（案）について、配布資料をもとに説明がなされた。

平成２７年度 第２回 拡大理事会報告②

５　平成 27 年度　日本教育大学協会全国美術部門代表・大学美術教育学会理事長選考委員会

　新関副理事長より、平成 27 年 9 月 19 日に開催された日本教育大学協会全国美術部門代表・大学美術教育学会理事長選考委員会について説明がなされ、小野副代表が次期部門代表・学会理事長として承認され、総会で正式に決定することが確認された。

Ⅲ　その他

１　総務局・事務部より【共通】

（１）会報について

　喜多村総務局理事より、会報編集の進捗状況について報告がなされ、各委員に執筆の協力依頼がなされた。

（２）会計担当について

　芳賀総務局長より、会費の納入状況について報告され、未納者への対応について説明がなされた。また、学会誌委員会等には、学会の基幹となる常設の委員会であることを考慮して諸経費を配分していく意向が示された。

　松尾総務局理事より、旅費の支払いについて説明があり、各委員会代表に出席者名簿の提出の依頼等がなされた。

（３）会員名簿について

　佐藤学会部長の代理として新野部門部長より、会員名簿について説明がなされた。併せて、HP への名簿掲載について報告がなされた。

２　その他

　改正された規定が HP 掲載される時期について質問があり、総会での承認後に掲載する旨の回答がなされた。

Ⅳ　挨拶

　竹井副理事長より、閉会の辞がなされた。

（記録：松尾大介／上越教育大学）

平成 27 年度 第 2 回拡大理事会

大学美術教育学会　平成 26 年度決算①

大学美術教育学会

理事長　　増田　金吾　様

平成 26 年度大学美術教育学会の会計について、
平成 27 年 9 月 15 日　監査委員会を開催し、会計監査を実施した結果、

１．収支について伝票類と帳簿類を対照監査した結果、それらが正確に仕訳、記帳されていました。
２．収支の伝票類と記帳類は整理され、収支の内容・使途も明確に記帳され、会計が適切に処理されていました。
３．帳簿類差引残高及び貯金・現金残高と決算書との対照も行いましたが、正確であることを確認しました。

以上のごとく、平成 26 年度会計の処理及び決算が正確に執行されていたことを報告いたします。

平成 27 年 9 月 15 日

大学美術教育学会

監事　大嶋　彰

監事　岩村伸一

大学美術教育学会　平成 26 年度決算②

□収入

	費　目	平成 26 年度予算	平成 26 年度決算	備　考
	前年度繰越金	618,144	618,970	826 円の追加金
年会費	会費納入（収入）	5,200,000	4,928,000	会費納入：616 名
	会費未納		(1,184,000)	会費未納：148 名
掲載負担金	学会誌掲載負担金	3,000,000	1,500,000	
その他	雑収入		3,000	
	合　計	8,818,144	7,049,970	

※平成 26 年度 大学美術教育学会の会員数 764 名

■支出

	費　目	平成 26 年度予算	平成 26 年度決算	備　考
補助金	研究大会補助金	50,000	50,000	
印刷製本費	学会誌刊行費（発送費込み）	1,450,000	1,939,302	H26 郵送費込み
	会報刊行費（発送費込み）	300,000	139,968	H26 郵送費込み
	会員名簿刊行費	0	0	平成 27 年度作成予定
	大会概要集刊行費	400,000	296,460	
運営費	運営委員会費	300,000	－	部門支出
	学会誌委員会費	200,000	213,044	
	国際交流委員会費	100,000	305,628	
	拡大理事会費	300,000	252,058	
	造形芸術教育協議会	100,000	86,772	
	会議費	100,000	148,378	
事務経費	通信	10,000	6,600	
	郵送費	600,000	108,200	
	事務費	30,000	115,906	
	支払手数料	10,000	5,988	
	雑費	130,000	85,036	その他印刷
委託費	事務部業務委託費	150,000	150,000	
	事務支局業務委託費	2,000,000	1,296,000	
	会員 P.W/委託移行作業	－	＊286,112	平成 26 年度のみ支出
	ホームページ制作費	－	＊453,600	平成 26 年度のみ支出
	学会誌編集委託費	450,000	623,700	
	大会受付業務委託費	320,000	270,000	
	HP 管理費	60,000	60,000	
負担金	教育関連学会連絡協議会	10,000	10,000	年会費
予備費	予備費	1,748,144	147,218	
	合　計	8,818,144	7,049,970	

※会員 P.W/委託移行作業（286,112 円）、ホームページ制作費（453,600 円）は、アウトソーシングに伴う初年度の必要経費である。

※学会の運営費は、部門とともに合わせて予備費等から用いる。

※ホームページ制作費（453,600 円）は、部門の分を含め、学会の支出としてある。

平成２７年度　事業報告

6 月上旬	「学会会報・第 32 号/横浜大会案内」発行・郵送 「横浜大会案内（第 1 次）」 研究発表（口頭）・投稿論文登録の「申込案内」
6 月 21 日（日）	第 1 回運営委員会（東京／TKP スター貸会議室　新橋）
8 月 18 日（火）	大学美術教育学会「横浜大会」研究発表（口頭）の「申込」締切 「概要集原稿」提出締切 ポスター発表・ポスター展示の「申込」／「概要集原稿」提出締切
8 月 24 日（月）	学会誌・事前投稿登録締切
9 月 1 日（火）	横浜大会参加申込締切
9 月上旬	「横浜大会案内（最終）」 平成 26 年度会計監査 （大嶋監事・岩村監事）
9 月 11 日（金）	第 2 回 運営委員会(東京／TKP スター貸会議室　新橋) 「投稿論文」締切（必着）、学会誌編集作業開始
9 月 19 日（土）	大会前日諸会議：拡大総務局会、第 1 回拡大理事会、各種委員会（第 1 回学会誌委員会・国際交流委員会）
9 月 20 日（日）	第 54 回大学美術教育学会「横浜大会」
9 月 21 日（月）	部門・学会合同開催式（横浜国立大学）、部門協議会、総会、部門・学会合同懇親会、シンポジウム、ポスター発表・ポスター展示、研究発表（口頭）、閉会式、大会開催大学引継ぎ（次期開催大学-北海道教育大学）
10 月 25 日（日）	第 2 回学会誌委員会（大阪教育大学）
10 月下旬	「学会会報・第 33 号」発行・郵送
12 月 9 日（水）	「投稿論文の最終提出」提出締切（必着）
（平成 28 年）	
1 月 24 日（日）	第 3 回運営委員会（アットビジネスセンター東京駅）
1 月 29 日（金）	投稿論文掲載者による掲載負担金納入（厳守）
3 月 6 日（日）	拡大総務局会、第 2 回拡大理事会、各種委員会（第 3 回学会誌委員会・国際交流委員会）、次年度　組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ（アットビジネスセンター東京駅）
3 月末日	「学会誌・第 48 号」発行・郵送 「学会会報・第34号」(次期大会予告)」発行・郵送

平成２８年度　事業計画

5 月下旬	「学会会報・第 35 号」発行・郵送 「北海道大会案内（第 1 次）」 研究発表(口頭)・投稿論文登録の「申込案内」
6 月	第 1 回運営委員会（場所　未定）
8 月 9 日（火）	大学美術教育学会「北海道大会」研究発表（口頭）の「申込」締切 「概要集原稿」提出締切 ポスター発表・ポスター展示の「申込」／「概要集原稿」提出締切
8 月	学会誌・事前投稿登録締切
8 月下旬	平成 27 年度会計監査
9 月 1 日（木）	北海道大会参加申込締切
9 月上旬	「北海道大会案内（最終）」
9 月	第 2 回 運営委員会（場所　未定） 「投稿論文」締切（必着）、学会誌編集作業開始
9 月 23 日（金）	大会前日諸会議：拡大総務局会、第 1 回拡大理事会、各種委員会（第 1 回学会誌委員会・国際交流委員会）
9 月 24 日（土）	第 55 回大学美術教育学会「北海道大会」
9 月 25 日（月）	部門・学会合同開催式（北海道教育大学）、部門協議会、総会、部門・学会合同懇親会、シンポジウム、ポスター発表、研究発表（口頭）、閉会式、大会開催大学引継ぎ（次期開催大学-広島大学）
10 月	第 2 回学会誌委員会（場所 未定）
12 月	「投稿論文の最終提出」提出締切（必着）
（平成 29 年）	
1 月	第 3 回運営委員会（場所　未定） 投稿論文掲載者による掲載負担金納入（厳守）
3 月上旬	拡大総務局会、第 2 回拡大理事会、各種委員会（第 3 回学会誌委員会・国際交流委員会）（場所　未定） 次年度　組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ（場所　未定）
3 月末日	「学会誌・第 49 号」発行・郵送 「学会会報・第 36 号」(次期大会予告)」発行・郵送

平成２８年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会

第５５回 大学美術教育学会　「北海道大会」（ご案内）

大会テーマ　「美術と教育における地域の多様性」

◇内容　研究発表・シンポジウム・総会・諸会議・懇親会など

◇日時

平成 28 年 9 月 24 日（土）受付開始予定 9：00
9 月 25 日（日）受付開始予定 9：30

※役員会・各種委員会
前日 23 日（金）受付開始予定 12：30
（札幌駅前サテライト４F 予定）

◇会場　**北海道教育大学　札幌校**
〒002-8502　札幌市北区あいの里５条３丁目
・札幌市内中心部から公共交通機関で 50 分ほどかかりますので、開始時刻にご注意願います。

◇申込方法
＊６月１日から e-naf＋(オンライン大会登録受付システム)による参加申し込み(研究発表等を含む）を予定しています。
＊詳細は後日お知らせします。
＊大会参加は当日受付でも可能です。

◇参加費
会員・一般　４０００円（事前申込）
５０００円（当日）
院生・学生　２０００円（事前申込）
３０００円（当日）
※院生には現職教員も含む
懇親会　５０００円
サッポロビール園

【注意事項】
※宿泊斡旋は行いません。この時期大変込み合いますので各自で早めに確保願います。
※１日目の研究発表後の懇親会場への移動は各自でお願いします。
※５月に１次案内を発送する予定です。

【問合せ】
※大学美術教育学会北海道大会準備委員会
事務局長　阿部　宏行（岩見沢校）
<abe.hiroyuki@i.hokkyodai.ac.jp>

会場（札幌校）までの公共交通機関図

●JR
学園都市線「あいの里教育大駅」下車，徒歩20分
●地下鉄・バス
南北線「麻生駅」より中央バス麻24・あいの里教育大線
または東豊線「栄町駅」より中央バス栄20・栄23・栄町教育大線，「教育大前」下車，徒歩2分

■旧口座の閉鎖に関するお願い

業務委託に伴い、事務部で管理していた旧口座は廃止しました。年会費支払いに関しては、新口座になっておりますので、お気をつけください。

口座番号：00980-6-203000
加入者名：大学美術教育学会

※大会参加費の送金先とは異なりますのでご注意ください。

事務部廃止に伴う総務局専用のメールアドレス

日本教育大学協会全国美術部門並びに大学美術教育学会において、平成20年度以降、一大学の事務局運営から全国各地の大学教員による総務局体制で運営を変更しましたが、それと同時に事務部を設け、様々な事務仕事を民間の方に委託してきました。しかし、効率的で持続可能な運営をめざし、平成26年度、アウトソーシング（中西印刷に業務委託）に踏み切りました。その過程で事務部を廃止しつつ、事務体制の運営を見直しているところです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

総務局専用のメールアドレスは以下の通りです。

総務局専用メールアドレス
E-mail: daibibumon@uaesj.com

大学美術教育学会並びに全国美術部門の活動について、主に総務局長、学会部長、部門部長の3名により、このメールへの問い合わせに対応いたします。

事務支局のメールアドレス（E-mail: uaesj@nacos.com）とは異なりますのでご注意ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

学会誌バックナンバーの購入

現在、学会誌のバックナンバーの販売は行っておりません。（一部、関係機関を除く。）第48号より、Web上（J-STAGE）で閲覧できるように準備を進めているところです。

年会費の支払いに関するお願い

平成26年度の業務委託に伴い、事務部で管理していた会員データを事務支局（中西印刷）に移しました。まだ、一部、未整理のところもあるため、ご迷惑をおかけした方もおりますが、会費請求において不明な点はご連絡ください。

会員管理・会費関連に関するお問い合せ：
大学美術教育学会事務支局
（中西印刷株式会社内）
Tel: 075-415-3661 E-mail: uaesj@nacos.com

なお、払込取扱票の再発行はいたしかねますので、未納額がご不明な場合には事務支局へお問い合わせ願います。また、領収証は払込の控えをもって代替いたしますので、ご了承ください。

■会費未納分の支払いに関するお願い

会費の支払い方法が変更になったこともあり、例年に比べて会費納入状況があまりよくありません。

滞納の方は、早めに納入頂けますようご協力をお願いいたします。

なお、3年以上滞納している方には学会誌をお送りすることはできませんので、ご承知おきください。

【総務局広報室】

芳賀正之（静岡大学）
佐藤賢司（大阪教育大学）
新野貴則（山梨大学）
喜多村徹雄（群馬大学）